



謹啓

時下逐日暖和三益御

多祥奉賀耳

今般非地租同盟閣

西大曾也京部若一は

大沼之閣設きりに付

閣下之臨場と清史

とある者有之趣を新

閣ニ教見^{十五}古稿ニ不

得^多事^多先^と他

在地方の用と法^力或ハ

先^輕考^考之^在之^也之^也之^也

唐^山位^之者^之又^之閣

西^法古^法決^在之^也

西^法古^法決^在之^也



西法古法は法は法は
相成るは也はははは
孝と存存も 天下勝敗
の局は片ま一押しと謂ふ
梅第百を

閣下親らは古陣は
直に女要もあるははは
多の地は古軍は古軍
の士は一任はははは
特子谷三浦の将と古
地方運動は古法は古
古事決して策の得たる
あにあらと存は問何事
洗賢古法は古法

中法儀略は古法は古法
徳島縣は古法は古法
のり終るは古法は古法

地方運動のほかに張の海
陸軍決了の策の得たる
まにあらばと存は問何事
況して慮を致す

十生像の如く佐賀の
徳島縣の海軍の
ついでに左の如く時
都をよむ漢西の

お席し夫れも
の所存は望む

右申上座に此
恐惶如素

五月四日 時敏

大隈先生閣下